

## 《3月定例会》

2月17日から3月16日までの28日間にわたり定例議会が開かれ、諮問1件、市長提出議案35件、議提案2件を審議しました。

令和4年度  
一般会計予算

一般会計当初予算 ..... 159億5千万円

第1号補正予算 ..... 8531万4千円

(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等)

総額

## 会派代表による総括質疑

**問** 市政全般について、うちに閉じている、外に開かれていないという印象を受けている。今般の篠津北東部地区の開発、白岡中央総合病院の移転などの事業の端緒に職員がどう関わったか。目の付け所や事業の始まりに関わる動きは、外に開かれている職員育成の参考になるのではないか。新年度はどのような研修を考えているか。職場風土の醸成を図る研修を期待したい。もっと他流試合を心掛けてはどうか。

**答** 本市が諸課題に的確かつ柔軟に対応し、持続可能な発展を遂げるためには、職員一人一人の能力向上による組織力の底上げが不可欠である。このため、各種研修に職員を参加させ、専門的スキルや汎用性の高い知識等を習得する機会を設けている。研修科目は、時勢に見合った研修効果が得られるよう適宜見直しが図られ、三市一町共同研修会では、新たに政策形成能力研修を実施する予定である。

また、職員を関係団体に実務研修職員として派遣し、広域的な業務につながる知識の習得を図っている。今後も時機を失することなく、市の課題解決や市民満足度を高めるための施策が打てるよう多くの研修機会を活用し、計画的に人材育成を行い、市政発展のための強い組織づくりに積極的に取り組む。

**問** 4年度予算は、市長の色が非常に強く反映された編成となっている。都市計画道路白岡宮代線はさることながら、防犯灯等LED化ESCO事業※に2億2千万円、保健センター分館解体費用に約1億円など、大きな事業が散見されるが、コロナ禍において行財政改革で費用削減や財源確保に取り組む中、このタイミングでなければいけない理由は何か。

※ESCO事業…目標とする省エネルギー課題に対して包括的なサービスを提供し、実現した省エネルギー効果(導入メリット)の一部を報酬として受け取る事業。

**答** 防犯灯等LED化ESCO事業は、3年11月に策定した「行財政改革方針」における「歳出削減」の取組として位置付け、4年度からの実施とした。

また、都市計画道路白岡駅西口線及び駅前広場の早期完成を目指すため、保健センター分館の用地を代替地として提供するとともに、その機能を白岡消防署篠津分署に移転することとした。篠津分署の改修工事が終了し、機能移転が完了した後、速やかに解体・撤去が行えるよう4年度予算に計上したものである。これらの事業を含め、4年度当初予算は、市民の生命・財産を守るために必要な事業や、この時機を逸すると実現が困難な施策など、限られた財源の中で、事業を厳選し、編成した。

**問** 第6次総合振興計画の産業・雇用分野で「強い農業・担い手づくり総合支援事業」や「埼玉型ほ場整備事業」が新規事業として挙がっている。その計画の中にあるまちの姿として「地域の産業が活発でにぎわいのあるまち」を目指すことは、今後の白岡にどのような効果をもたらすか。

**答** 「強い農業・担い手づくり総合支援事業」は、国産の農産物の安定的な供給体制を構築し、「埼玉型ほ場整備事業」は農業生産性の向上を図る事業である。これらの事業により、第6次総合振興計画の施策の目標である農地の保全や効率的な利用、農村環境の保全を図るとともに、担い手の育成・確保を進め、魅力ある農業が展開されるまちの実現にも資すると考える。

また、持続可能な収益性の高い農業が営まれることにより、自然環境が維持され災害に強く、市民の皆様の心の豊かさにもつながるものと考えている。